豊島展開催記念シンポジウム

豊かな島と海を次の世代へ

2018年11月24日(土) 13:30 ～ 16:40

場所：**愛媛大学法文学部本館8階大会議室**

〒790-8577　愛媛県松山市文京町３番　tel. 089-927-9220

参加費：無料

主催：NPO 法人瀬戸内オリーブ基金
　　愛媛大学法文学部 兼平研究室

協力：NPO 法人えひめグローバルネットワーク

後援：（株）ユニクロ
　　四国環境パートナーシップオフィス

持続可能な社会を目指して

ボランティアによる瀬戸内海国立公園内の原状回復事業の様子。オリーブ畑のある香川県豊島の浜辺にて

シンポジウム開催の背景と目的

愛媛大学ミュージアムで開催中の企画展「豊島から未来へのメッセージ～持続可能な社会をめざして～」に合わせて、持続可能な社会とごみの問題について考えるシンポジウムを行います。豊島の有害産業廃棄物不法投棄事件、増える一方の海ごみ、予想をはるかに上回り深刻化するマイクロプラスチックなど、瀬戸内海を囲む地域で起きているごみの問題は、私たちひとりひとりの問題です。このことを改めて認識し、持続可能な社会を目指す行動について考えたいと思っています。ぜひご参加ください。

テーマ

豊かな島と海を次の世代へ

次第

13:00　受付開始

13:30　主催者あいさつ
（NPO 法人瀬戸内オリーブ基金・理事長 **岩城 裕**）

13:35　シンポジウムの開催にあたって
（愛媛大学法文学部教授　**兼平裕子**氏）

13:40　基調講演 1
曽根英二氏（ジャーナリスト・元阪南大学教授）

14:20　基調講演 2
日向博文氏（愛媛大学教授）

（休憩）

15:10　瀬戸内オリーブ基金の取り組み

15:30　パネルディスカッション
パネリスト
曽根英二氏（ジャーナリスト・元阪南大学教授）
日向博文氏（愛媛大学教授）
内田洋子氏（四国環境パートナーシップオフィス）
コーディネーター
兼平裕子氏（愛媛大学法文学部）

16:30　総括

16:40　終了

お問い合わせ
NPO 法人 瀬戸内オリーブ基金
〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦 3837-4
tel:0879-68-2911　fax:0879-68-2912
e-mail:info@olive-foundation.org
愛媛大学法文学部 兼平研究室
tel:089-927-8207

豊島展開催記念シンポジウム
豊かな島と海を次の世代へ

パネルディスカッション

曽根英二
ジャーナリスト

1949 年兵庫県生まれ、早稲田大学卒、山陽放送入社、JNN カイロ特派員。1999 年、豊島報道で 45 回菊池寛賞、2010 年、著書「限界集落」で 64 回毎日出版文化賞 2010 年から 7 年間、阪南大学教授。兵庫県警摘発前の 1990 年から豊島を継続取材、豊島のドキュメンタリーは 10 本超、『ゴミの島から民主主義』で民放連盟賞最優秀。著書に「ゴミが降る島」、「生涯被告おっちゃんの裁判」。

基調講演

「過酷な戦いの先に」
～記者として見た豊島 27 年～

瀬戸内海を挟んだ地元山陽放送の記者として東京のゴミが香川県の豊島に搬入されているのを知る。バブル真っ只中の 1990 年 7 月、「筑紫哲也ニュース２３」で「特集・追跡ゴミルート」として放送したのが最初。住民が中坊公平弁護士を味方に立ちあがった豊島の戦いを27年間取材。「ニュース23」で15本超の特集を放送。ドキュメンタリーも『豊かの島のゴミ騒動』『泣き寝入りさせまへん』『島の墓標』など 10 本を数える。住民の過酷な戦いから見えるものは、官の無謬性の傲慢さであり、次世代へ豊かな島を伝えたいという住民の思い。あの手この手の草の根の戦いは民主主義本来の形を示唆している。ワンシーンが社会を変えるメディア。ジャーナリズム最大の役割は権力の監視。2017 年 3 月まで産廃の搬出にかかった現実。無数の穴ぼこと五色沼の様相の溜まり水から何を感じ取るべきか。過酷な戦いの先の希望を信じた住民たちがいなかったら豊島の勝利はなかっただろう。『凪がん時化はない』(2017 年)の一部上映予定。

日向博文
愛媛大学教授

愛媛大学大学院理工学研究科　生産環境工学専攻　環境建設コース、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（兼任）教授

基調講演

「海の中のマイクロプラスチックの動きと環境に与える影響」

マイクロプラスチックに関するこれまでの研究成果について、主に海洋におけるマイクロプラスチックの動きと懸念されている環境影響を紹介するとともに、瀬戸内海におけるマイクロプラスチック問題の特徴を他の海域と比較しながら説明する。

内田洋子
四国環境パートナーシップオフィス

娘のアトピー性皮膚炎から環境問題に関心を抱き、1987 年消費者団体を設立。1991 年からアースディズ高知の代表。関連した取組で「まち美化」や年 2 回海岸ごみの調査・清掃活動を行う。1997 年、1999 年、2001 年にスーパーの環境調査を実施。2001 年～ 2006 年特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議の事務局長。2001 年～ 2011 年全国の環境団体と自治体の環境政策を調査。2013年より現職。環境カウンセラー、3R推進マイスター。

パネルディスカッション・コーディネーター

兼平裕子
愛媛大学教授

1955年　愛媛県八幡浜市出身、1978年　広島大学政経学部卒業、2003 年　神戸大学大学院法学研究科博士後期課程修了・博士（法学）、 税理士を経て、2007 年より愛媛大学法文学部准教授、2010 年より教授（税法、環境法）

＜主要著書＞
『それでも環境税を払いたくなる本』（海象社、2009 年）
『低炭素社会の法政策理論』（信山社、2010 年）
『民放と税法の交錯』（愛媛大学法学研究叢書、2012 年）
『借用概念と税務争訟』（清文社、2016 年）
『英国司法審査と EU 法』（成文堂、2018 年）（出版予定）